

中2国

国
語

第一学年	組・番号
組	
番	
氏名	

※ 解答はすべて解答用紙に書きなさい。

1

次の各問いに答えなさい。

1 次の——を引いた漢字の読みがなを、**ひらがな**で書きなさい。

- (1) 本日の来訪者は二人だ。 ①
- (2) 部長に任命される。 ②
- (3) よい結果を期待する。 ③
- (4) 美しい風景を撮る。 ④
- (5) セーターが縮む。 ⑤

2 次の——を引いたカタカナの部分をも、漢字で書きなさい。(漢字は楷書で書くこと。)

- (1) 授業のフクシユウをする。 ⑥
- (2) 大会をウンエイする。 ⑦
- (3) 一定のホウソクに従う。 ⑧
- (4) プリントをクバる。 ⑨
- (5) 荒れた土地をタガヤす。 ⑩

3 次の漢字の↓で指した部分は、何画目に書きますか。数字で答えなさい。 ⑪

↓
費

4 「柱」という漢字の部首名をひらがなで書きなさい。 ⑫

5 「すっかり元気がなくなる」という意味の慣用句として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。 ⑬

- ア すずめの涙
- イ やぶから棒
- ウ 青菜に塩
- エ 立て板に水

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

書物はいつの世にも(1)ゆつくりと読むべきものだと思ふ。こんなにも本がたくさん出ているのに、と言うかもしれない。しかし、同じようにレコードだってたくさん出ている。展覧会も至る所で開かれている。だからといって、音楽を能動的に聴き、絵画を急いで見る人はいまい。それなのに、こと本に関する限り速読を目指すのはどういうわけなのだろう。おそらく、書物というものが鑑賞するというより知識の伝達の媒体と思われているせいであろう。確かに本とレコードでは違う。本のほうがはるかに多目的である。鑑賞するというよりは、情報を得たいために読まれる本のほうがずっと多いだろう。そんなことは十分承知の上で、なおかつ、私は速読を勧める。

速く読むということは一見能率的のように思えるが、結局は損をすることになる。私も必要に迫られて急いで読まざるを得ないことがある。ところが、急いで読んだ本に限って、あとに何も残っていない。そこで、もう一度読み直さなければならぬことになる。そして、改めてゆつくり読み直してみると、最初に読み飛ばしたそんな読書が何の意味も持っていないどころか、全く読み違えていたことに驚くのである。こうなると、速読するよりは読まないほうがましである。なぜなら、誤解は無知よりも有害だからである。

そんなことを言っても、必要に迫られて読まなければならぬ場合が多いではないか、と言うかもしれない。A、必要に迫られたらなおのことゆつくり読むべきである。必要に迫られる以上、あくまで誤読は許されないからだ。たとえ明日までにどうしてもこの一冊を読み上げねばならないという必要に迫られた場合でも、ゆつくりと読み、

読めるところまで読んで本を閉じたい。そのほうが、いい加減に斜め読みをするよりは、はるかに得るところが大きい。

速読を勧めるもう一つの理由は、いくら速く読んでみたところでたかが知れているということである。どんなに速読の技術を身に付けたところで、二倍のスピードで読めるものではない。仮に二倍の速度で読めたとしても、そうした速読から読み取ることができるのは、ゆつくり読んだときの二分の一に過ぎない。B、半分しか読み取らないのだから二倍の速さで読めるわけだ。しかも、その半分が前に述べたように誤読に陥りやすいとすれば、速読というものがいかに無意味であるかに気付くであろう。実際、本というものはそんなにたくさん読めるものではない。わずかな本しか読めないからこそ、何を読むかその選択が大切になる。つまり、ゆつくり読むことは、それだけ良書を選ばせる効果を持つのである。

わずかな本しか読めなかったなら、それだけ視野は狭くなり、とても現代に追いついていけないと言うかもしれない。確かにそういった不安が現代人を速読へと駆り立てている。だが、そんなことは決してない。(2)十冊読む人よりも五冊読む人のほうが視野が広く、立派な見識を身に付けているというようなことはざらにあるのだ。読書の価値は何冊読んだかで決まるのではなく、どんな本をどのように読んだかで決まるのである。

私は、読書とは「葦の髄から天井をのぞく」ことだと思っている。ふつうこの言葉は、そんなちっぽけな穴から天をのぞいてみても、広大な天のほんのわずかな部分が見えるだけだ、とその視野の狭さを笑ったものと解されている。確かにそういう意味だろう。しかし、実際にのぞいてみると分かるが、葦の髄からでも結構天は仰げるのであ

る。いや、むしろ小さな穴からのぞいたほうが対象がよく見えることも多い。

とにかく、本はゆっくり読むに限る。ゆっくり読めば一冊の本がどれほど多くを語ってくれるのか。読書とはただそこに書かれていることを理解するという単純な作業ではなく、いかにして、書物により多くのことを語らせるかという技術なのである。それは、優れたインタービュアーが相手からおもしろい話を十分に引き出すことができるようなものだ。性急な読書では本は何も語ってくれはしない。仮にその内容を要領よくつかんだとしても、ただそれだけの話である。それでは⁽³⁾本を読んだというより、本をつかんだというに過ぎない。

読書とはあくまで著者と読み手との対話なのである。読み手が時間をかけてゆっくりと問いかけなければ、著者は、それこそ通り一遍の答えしかしてくれないのである。

(森本哲郎「遅読術」による)

※1 媒体||情報を伝達する手段となるもの。

※2 見識||ある物事に対する考えや意見。

※3 葦の髄||葦(イネ科の植物)の茎の中心にあるすき間。

※4 通り一遍||形だけで誠意がこもっていない様子。

1 (1) ゆっくりと読む とありますが、これとは反対の意味を持つ言葉を、文章中から漢字二字で抜き出して書きなさい。 ⑰

2 A と B に入る言葉の組み合わせとして最も適切なものを、次のア〜エの中から一つ選び、記号で答えなさい。 ⑱

ア A として B なぜなら

イ A しかし B つまり

ウ A あるいは B また

エ A やはり B ところが

3 (2) 十冊読む人よりも五冊読む人のほうが視野が広く とありますが、「たたくさんの本を読むより一冊の本をゆっくり読む方が効果的だ」という筆者の主張を、たとえを用いて表している部分を、文章中から二十一字で抜き出して、その初めと終わりの五字を書きなさい。 ⑲

4 (3) 本を読んだというより、本をつかんだというに過ぎない とありますが、「本をつかむ」とはどのようなことですか。「〜こと」に続くように、文章中から十八字で抜き出して、その初めと終わりの五字を書きなさい。 ⑳

5 この文章で筆者が述べている内容として、最も適切なものを、次のア〜エの中から一つ選び、記号で答えなさい。 ㉑

ア 読書においては、どんなに読み手が著者に問いかけても疑問は解けない。

イ 読書の価値は、どれだけ多くの種類の本を読んだかで決まる。

ウ 限られた分野の本しか読まなくなると、その人の視野は狭くなってしまふ。

エ ゆっくり読めば、一冊の本でもたたくさんのことを語ってくれる。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〔少年〕は、二つの岬すゐの間の小さな島に、一家族だけで住んでいる。海の荒れる日は、祖父の舟が出せず、岬にある学校に行けないことが多い。

(1) 学校の飼育器では、人工孵化ふかをしているチャボの卵が、もうすぐ孵ふるはずだった。祖父の舟で島へ帰る間際、少年はしきりに翌日の天候を気にしていた。暮れなずむ天は、うす紫と藍あゐに染まり、たなびく夕もやを突き抜けて火炎の帯が一筋走っている。無線から、快晴だが強風であるとの予報が流れた。春の海風は気まぐれで、風向きは安定しない。少年の祖父も予想がつかないと苦笑いした。

強風ならば、渡し舟を出せないだろうとも言い、かたわらの少年は浮かない顔をして帰りの舟に乗りこんだ。紺野先生は自分の下宿に少年を泊とめてもよいと提案したが、彼の祖父は、孵化の場面に立ち会うのと同じくらい、望みがかなわないことを辛抱する気持ちも大事だと少年を諭さとした。夕やみのなか、群青の水尾をひいて舟は島へ向かった。翌朝、紺野先生は早起きをした。入り江の架橋にある風向計のことが気になった。南西風が吹きつけ、勢よく回転している。雲ひとつない快晴だったが、海面には白い角のような波が見えた。【ア】

少年が案じていたとおり、舟は渡れそうもない。次に、学校の理科室へ急いだ紺野先生は、飼育器の卵のようすを観察した。何ともいえないが、紺野先生の勘かんでは今日中に孵化しそうである。その足で高台の気象観測所まで行き、岬の突端とつたんにあつて見晴らしもよいその場から、少年の住む島を眺めた。【イ】

つないである舟が見える。近くに人影があるように思い、観測所の双眼鏡を借りてのぞいた。【ウ】

かばんを手に、落ちつかないようすで舟の付近を歩きつもとどりつしている。もやい杭くいの近くに取りつけた風力計はちぎれて吹き飛ばされそうだった。風が強い。【エ】

そこへ少年の祖父も姿を見せて、ふたりで何やら話をしている。じきに並んで家のほうへ歩きだした。

飼育器の卵をずっと見守ってきた親代わりの生徒たちにとって、孵化の場面に立ち会うことは、どんなにか満足を感じるのだらう。あれほどの強度を持った殻かを、まだ目もあかないひな鳥が、渾身の力をこめてこわすのである。強風のために入り江の架橋も閉鎖され、遠回りを余儀なくされた生徒たちは、いつもより遅れて登校してきた。

その朝、飼育器の卵から、ひな鳥の鳴く声が聞こえた。皆がほかの授業を受けているときは紺野先生が見守っている。殻にひびが入ったら知らせに行く約束をした。その紺野先生のところへ、無線機を使った通信が入った。

「先生、ハッチ・アウトはどうです。はじまりましたか。」

島に住む、あの少年である。

「まもなくだよ。」

ちようど、ひびが入り始めたので、紺野先生は送信機を卵のすぐ近くへおいて生徒たちを呼びに行った。紺野先生がもどり、ほかの授業をしていた生徒たちが飼育器のまわりに集まったとき、卵の殻はすでに小さな穴があいていて、ひな鳥のくちばしの先が見えた。無線機の少年が言う。

「先生、もしかしたら、殻の破れる最初の瞬間に立ち会ったのはぼく

だけでですか、」

「そのようだね。声を聞いたかい、」

「ええ、もちろん。」

明朗な声が答えた。その場にいた生徒たちが(2)のほうを言うまでもない。それから、ひな鳥は休みながら少しずつ殻を破り、数十分かけてようやくクシャクシャの全貌をあらわした。やがて、ぬれてしぼんでいた羽がふくらみ、キヤラコキヤラコの毛糸のようになった。

翌日は風がおさまった。紺野先生は無線機に耳をそばだてていたあの少年に、(3)ひなが残した卵の殻を手渡した。少年は最初のひとかけらに違いない小さな一片を、いとおしげに手のひらにのせている。

(長野まゆみ「夏帽子」による。一部改)

※1 もやい杭もやい杭舟をつなぐために水中や岸に立てた柱。

※2 ハッチ・アウトハッチ・アウト孵化。

※3 全貌全貌全体のがた。

※4 キヤラコキヤラコ目の細かい光沢のある布。

1 (1) 学校の飼育器では、人工孵化をしているチャボの卵が、もうすぐ孵るはずだった。とありますが、紺野先生は、チャボの卵が孵化したら、生徒たちがどのような気持ちになると考えていましたか。その内容が最もよくわかる一文を文章中から抜き出して、その初めの五字を書きなさい。 ㉔

2 (2) に入る言葉として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。 ㉕

ア うらやんだ イ かなしんだ
ウ とまどった エ せめたてた

3 (3) ひなが残した卵の殻を手渡した。とありますが、登校できなかった「少年」のために紺野先生がとった行動は他にもあります。その行動を、文章中から二十五字で抜き出して、その初めと終わりの五字を書きなさい。 ㉖

4 この文章中の「少年」について説明したものとして最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。 ㉗

ア 「少年」は、卵の孵化の場面に立ち会えたうえに、その殻も手に入れることができ、他の生徒たちに申し訳ないと思った。

イ 「少年」は、卵の孵化の場面には立ち会えなかったが、先生にたのんで卵の殻を手に入れることができ、とても満足だった。

ウ 「少年」は、卵の孵化の場面に、他の生徒たちどいっしょに立ち会えなかったことが、とても心残りだった。

エ 「少年」は、卵の孵化の場面に居合わせなかったが、結果的に一番先に立ち会ったことになり、とてもうれしかった。

5 次の一文は文章中の【ア】～【エ】のどこに入れるのが最も適切ですか。一つ選び、記号で答えなさい。 ㉘

やはり、あの少年がいる。

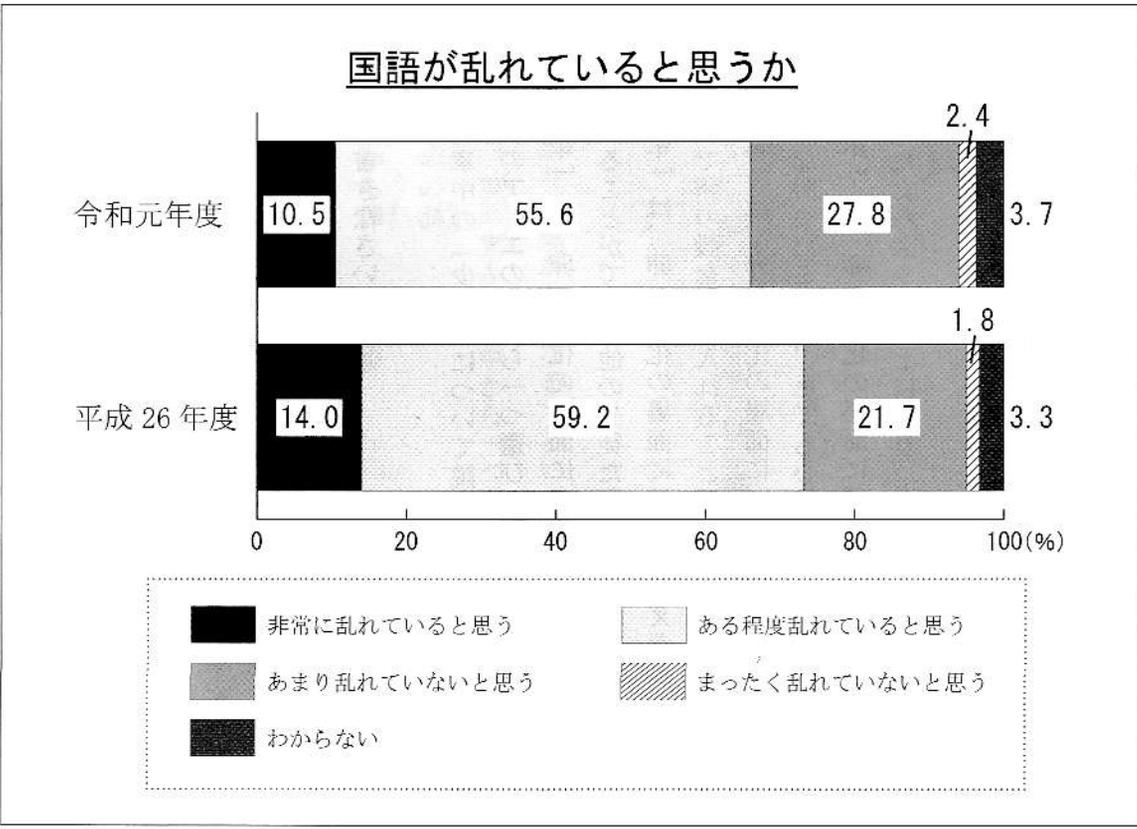
5

下の資料は、文化庁が全国の十六歳以上の男女を対象に実施した「国語の乱れ」についてのアンケートの調査結果の一部を示したものです。

あなたは、「国語の乱れ」についてどのような考えますか。資料を参考にして、あなたの考えを書きなさい。

ただし、次の条件に従って書くこと。 ㉗

- 条件1 百二十字以上、百四十字以内で書くこと。(句読点も字数に数える。)
 - 条件2 まず、資料から読み取れることを書き、次に、「国語の乱れ」について、あなたの考えを書くこと。
 - 条件3 題名と氏名は書かないこと。
 - 条件4 文末は、敬体(くです。くます。)で統一すること。
 - 条件5 正しい原稿用紙の使い方をすること。ただし、{ や ||| などの記号(符号)を用いた訂正はしないこと。
- また、グラフの数値は 99.9% のように表記すること。



(文化庁 令和元年度「国語に関する世論調査」より作成)